

猿新聞

編集・発行者
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

B群遊動域広がる！ 井手・結馬・黒田方面に

名張B群の遊動域は、国道165号線山側では旧錦生小学校付近どまりで、減多なことがない限り坂の下や井手の方まで行きませんでした。

ところが、最近では井手はおろか結馬・黒田にまでも被害が多発している、今後の遊動域の拡大が心配されています。

サルによる農作物の被害は、耕作意欲を低下させ、耕作放棄地の拡大など、中山間地域の農業に大きな障害となっていることが指摘されており、早急に効果的な対策を講じていくことが必要です。

B群の遊動域が黒田方面に拡大した理由。

今まではサル被害がなかったのですから無理もありませんが、防護が手薄だったことは間違いなく、思っています。長年サル被害に悩んできた地域住民との被害抑止意欲にも差があったと思います。

「地域住民全体」が情報を共有しましょう。

効果的な対策には、電気柵などの施設整備も必要ですが、最も大事なことは、地域住民の被害抑止意欲の向上といった、ソフト面での条件整備が不可欠となります。

名張農林資源室では、サルの移動情報を毎日発信しています。

にしましょう。サル対策には「これで完全だ」という対策はありません。学習能力が高いので、定期的に見直しをして改善。被害の状態により、あの手この手と工夫することで、完全対策に近づきます。

☆受信機は要望すれば貸与されます。

（詳細は名張農林資源室）B群には、群れを離れた3〜4頭のハナレザルが、徘徊しています。

ハナレザルは、発信器のついていない単独か少数の集団ですので神出鬼没で、ゲリラ的な被害を起す対策が非常に困難です。放置すればその集落に居着く恐れもありま

す。見付けたときは大勢で積極的に山奥まで追いついていくことが必要です。払って下さい。

・集落ぐるみ、地域ぐるみで根気よくサルを追いつくことが大切です。

・サルの行動特性に合わせた柵を設置し菜園を守りましょう。

・サルがあまり好まない作物（トウガラシ、オクラ等）を畑の外周に植えるなど菜園全体の魅力をなくす工夫をしましょう。

・集落と山林の境は、見通しを良くしましょう。

・集落内のやぶをなくしましょう。

・逃げ場所になっていない立ち木はできるだけ切りましょう。

・収穫した作物の保管はサルの目にふれないように

てイノシシの被害の方が深刻です。特にこれから秋にかけて、水稲、サツマイモ、カボチャ、などの収穫期を迎え、1年中で最も被害が大きくなる時期です。

近年、畦畔の掘り起こし被害も目立ち、農作物被害も痛手ですが、土木構造物に及ぶ被害の方が労力的、金銭的にも一段と大きな痛手となります。

イノシシは、浸入して餌にありついたら圃場は忘れません。昨年被害のあった圃場は要注意です。

侵入を防ぐ柵を設置しましょう。

ポピュラーな方法ですが、トタン板で囲むのが目隠しにもなり効果が絶大です。

シカの被害は、市内全域において発生しており今年も、昨年よりも多発傾向にあり、特に水稲被害が拡大しています。

被害の発生は、水稲に

ついては、シカが柔らかい新葉を好むことから育苗から分けつ期の6月頃が被害のピークになります。

しかし、シカの生息数が多く農地に頻繁に現れる地域などでは、成熟期まで被害が続く可能性が

あります。被害の症状は、茎葉や穂の食害のほか侵入による踏み倒しや引き抜きなどです。

これに対してイノシシは、9月頃がピークになります。これはシカが田植え後の若いイネを食害することが多いのに対して、イノシシは乳熟期以降の穂を食害することが

多いためです。結果として

イノシシの被害の

これから本番 猪被害

シカの被害は、市内全域において発生しており今年も、昨年よりも多発傾向にあり、特に水稲被害が拡大しています。

被害の発生は、水稲に

ついては、シカが柔らかい新葉を好むことから育苗から分けつ期の6月頃が被害のピークになります。

しかし、シカの生息数が多く農地に頻繁に現れる地域などでは、成熟期まで被害が続く可能性が

あります。被害の症状は、茎葉や穂の食害のほか侵入による踏み倒しや引き抜きなどです。

これに対してイノシシは、9月頃がピークになります。これはシカが田植え後の若いイネを食害することが多いのに対して、イノシシは乳熟期以降の穂を食害することが

多いためです。結果として

イノシシの被害の

らです。手入れされなくなった里山には下草が繁り、イノシシにとっては最適環境になっていきます。イノシシ対策の基本は、「イノシシを寄せ付けな

い」環境づくりです。

雑食性で甘みのある果実を好みま

す。運動能力が高く、電線の上でも歩くことができ、高さ1メートル程度ジャンプするので、柵を作る場合は高

く、周辺の樹から侵入にも注意する必要があります。小さな穴からでも侵入できるため、浸入穴を見つけたら早急な対処が必要です。

繁殖は、明らかにな

っていない点もまだ多いですが、通年出産。妊娠期間はおよそ2ヶ月。1度の出産で1〜5頭の

子供を産むそうです。イノシシ被害をアラ

イグマの被害と勘違いされることがありませんか？

イグマの被害では、500円玉くらいの穴をあけて中をくりぬいて食べ

ていけばアライグマで、10センチくらいの穴をあけて、

方法はありません。

ハクビシン 有害駆除対象外？

ハクビシンは、台湾原産で長い尻尾が特徴です。名前通り、顔の中心の鼻に白い線があります。

環境省は「移入時期がはっきりしない」として、明治以降に移入した動物を対象とする外来生物法に基づき特定外来生物に指定していません。

指定作業が困難です。

次に、最も効果が高いとされるのは電気柵ですが、設置コストが高く管理面にもリスクがあります。

したが、とりわけ大きな欠点とされるのが、イノシシは分厚い毛皮に覆われていて、電線が鼻先に触れないとあまり効果がないということです。

このため、鼻先に電線が触れるように設計することが大事です。

いろいろな市販グッズがありますが、どれも一長一短があります。

田畑や集落にイノシシがやってくる原因は、農作物だけではありません。

集落や圃場がイノシシが好む環境になっているか

ハクビシンは、夜行性で昼間は樹洞・岩穴・人家の屋根裏などに潜み、夜になると餌を探しに外に出ます。

雑食性で甘みのある果実を好みま

す。運動能力が高く、電線の上でも歩くことができ、高さ1メートル程度ジャンプするので、柵を作る場合は高

く、周辺の樹から侵入にも注意する必要があります。小さな穴からでも侵入できるため、浸入穴を見つけたら早急な対処が必要です。

繁殖は、明らかにな

っていない点もまだ多いですが、通年出産。妊娠期間はおよそ2ヶ月。1度の出産で1〜5頭の

子供を産むそうです。イノシシ被害をアラ

イグマの被害と勘違いされることがありませんか？

イグマの被害では、500円玉くらいの穴をあけて中をくりぬいて食べ

ていけばアライグマで、10センチくらいの穴をあけて、

方法はありません。

方法はありません。



ハクビシンと思われる足跡
(矢川の水田で)



前足

後足

頭を突っ込んで食べているようならハクビシンと

思ってください。

ハクビシンの大好物のイノシシの防除は、イノシシが植わっていることを分らないよう雑草をそのままにするなど、「目隠し栽培」することで被害を減らすことができます。

100円ショップで「ザル」を買い、イノシシに被せておくだけでも効果があるそうです。

ハクビシン被害は、農作物だけではありません。

家で飼っている金魚を食べてしまったり、なかには鶏が被害に遭ったというところもあるようです。

近年、市街地での一般

家屋への侵入が年々増加傾向にあり、屋根裏での騒音被害や糞尿による汚損被害が多く発生して

います。社寺の祠に侵入し文化財に被害が及ぶことも心配されます。

行政は、早急にハクビシンの有害駆除対策を確立する必要があります。

サルの出没状況 名張A・B群

A群は、青蓮寺湖の桑の実、比奈知湖のニセアカシアの花がなく、なつたので、エリア全域で農作物に被害を出している。

B群は、いつも通りのパターンで遊動。特に安部田周辺への出没



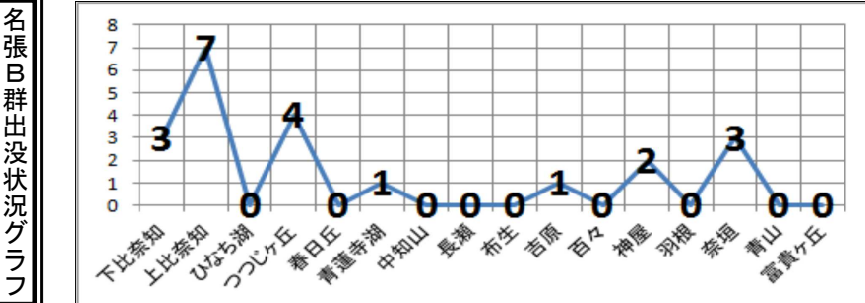
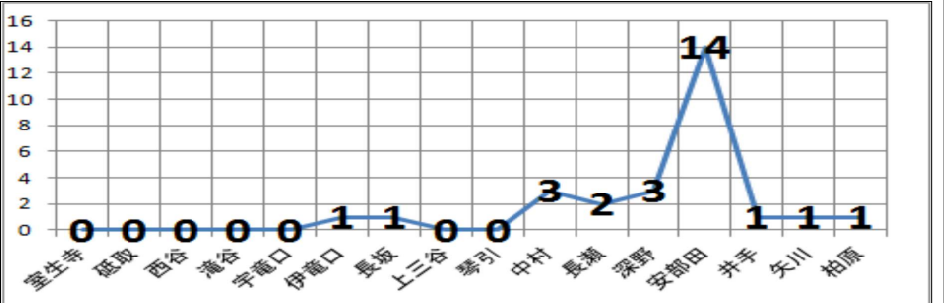
認定式風景

モンキードッグ 認定式

平成27年6月30日、宇陀市生テニスコートで、平成25年度4期7頭、26年度5期6頭MDの周知看板授与とMD認定証授与の式典が挙

行された。協議会会長の挨拶、名張市や宇陀市の猟友会会長、関係自治会長など紹介後、出席MD7頭全員で訓練成果披露のデモ行進が行われた。

【文・写真】畠山ひさ子



が多く、安部田、谷出、坂の下、井手周辺の被害が目立つ。